

## 総合演習

授業タイトル：「ユニバーサルデザインから学ぶ、立場の違う人との付き合い方」

子供の設定：

- 地域の特徴  
東京都町田市玉川学園前、都市中心部の駅ビルなどの施設にはバリアフリー対策が施されているが中心部から少し離れた郊外では、坂道などが残っており、高齢者や障がいを持った人にとって利用しやすい場所ではない。
- 学年  
第5学年
- 子ども達の構成  
私立玉川学園  
男子17人 女子15人。

多くの児童はバリアフリーの施設や機能について着目しておらず、関心がない。知識として知っている児童はいるが、電車の中で目の前に妊産婦や高齢者などがいても友人とのお喋りなどに夢中で、優先席などで席を譲ることが少ない。また、高齢者や障がい者と同居している児童も少ない。

教師の問題意識：

高齢者や障がい者と同居している児童が少ないため、そういった人々の大変さを理解していない。そのため、骨折した児童に対しても、奇異の視線で見たり、面白半分の近づき方が多いように思われる。また、困っている人への働きかけが少ない。特に、自分から進んで動こうとする児童がいない。これについては、働きかけの方法が分からないという具体的経験の不足によるものと思われる。

授業目的：（目に見えなくても構いません）

配慮や思いやりを必要とする人々も、健常者と同じように日常生活ができるように、というコンセプトのもとに設定されたユニバーサルデザイン（以下UD）の考え方を学び、実際にそれらの施設や設備を見つけ、体験することで、他者の立場にたった視点で街や公共施設を見ることができるようになる。さらにはそういった人々の側に立って考えることを通して、具体的な行動をとれるようになることを目的とする。

子供達の到達目標：（目に見える具体的なものにします）

1. バリアフリーとUDの違いが区別でき、おもに身の回りのUDについて具体的に例を挙げられる。
2. 玉川学園（町名）にあるバリアフリー・UDの設備や施設を発見できる。
3. また、逆に玉川学園内でバリアフリー・UDになっていない場所などを発見できる。
4. 手助けを必要としている人を見つけたら、自ら、手助けを必要としているかを確認できる。
5. 手助けを必要としている人に、自分のできる範囲での働きかけがおこなえる。

授業計画：授業目的を達成するために必要な授業数と各授業の概要

1回目	バリアフリーとUDってなんだろう？	バリアフリーとUDについての概念の違いを理解し、それぞれ具体的な例をあげられる。
2回目	探しに行こう、UDとバリアフリー	学校周辺から、バリアフリー、UDの設備を発見できる。また、それらの設備が整っていない場所についても発見できる。（町内地図などでまとめる）
3回目	あなたなら、どうする？	障がいをもつ人、高齢者、妊婦、乳幼児を連れている人へ、自分のできる関わり方や手伝いの例をあげられる。
4回目	あなたの立場 わたしの立場	障がいをもつ人、高齢者、妊婦、乳幼児を連れている人の例を通し、その人たちの不自由さは、「不自由な構造」によって作られていることを指摘できる。
5回目	立場の違う人との付き合い方まとめ	前回まで考えた「付き合い方」の例を発表。

		自分が障がいをもつ人、高齢者、妊婦、乳幼児を連れて いる人たちとどのように付き合うのか、感想文を提出
--	--	---

本時の授業： 上記の表の 1 回目の授業（模擬授業は上記の授業計画の中の1つの授業をします）

本時の授業でのポイントや指導上の注意点：

バリアフリーとUDはかなり似ているので、なるべく具体的な例をあげ、  
概念の違いを分かりやすくする。

（例：活字の印刷→小さい字を大きくするために、虫眼鏡を使う＝バリアフリー  
→最初から大きめの字で印刷し、なおかつルビを振る＝UD）

授業方法：なぜ、その授業方法／教材、etc.を選んだのか？

- ・バリアフリーは、使えない人のために特別な工夫をして使えるようにデザインすることであり、UDは、はじめからみんなが使いやすいようにデザインすること、という概念の差異を確実に伝えるため、できるかぎり具体的例を提示することや繰り返しUDとバリアフリーの内容を反復することで、知識の定着をはかる。例示としては「蛇口」（バリアフリー：ひねる式のもの→レバー式に変更。UD：最初からセンサーによって自動で水が出るものを作る、など。）  
<http://c-kids.toshiba.co.jp/care/kids/universal/uni01.htm> を参考に。

本時の授業：

流れ	教師の指示内容	教師の動きなど	時間
導入 《体験》	<p>※ あらかじめグループ席にしておくこと。</p> <p>「今日は皆さんにプレゼントがあります。」 「今から飴玉を配ります、ただし<b>絶対</b>にまだ<b>食べない</b>ように」 《T.T 飴を配布》 「全員に行き届きましたね。」 「では、この飴玉を手を使わずに食べてみてください。」 「手を絶対に使ってはいけません。手を後ろにして離れないようにしてくださいね」</p> <p>〈児童に体験させる：2分〉</p> <p>「どうでしょうか、皆さん食べられましたか？」 「食べられた人も、すごく食べづらかったのではないのでしょうか。」 「今日の授業はそういう『不自由さ』について勉強していきます。」 「では授業を始めます。先生がもろもろ準備をしている間に飴玉を食べていておいてください。今度は手を使っていいですよ」 《T.T 飴玉のごみをすぐに回収する》</p> <p>「今皆さんは一時的ではありますが手を使いませんでした。」 「とても不便さや不自由さを感じたと思います」 「ですが、その不便さや不自由さを常に感じている人もいます。」</p> <p>「これは何も手だけの話ではありません。 足や目など、ほかの部分にさまざまな不自由さを感じている人もいます。」</p> <p>「それではこの図を見てください。」</p> <p>OHPもしくはPCで、UD/BF行われてない町の絵表示。</p>	<p>箱から飴玉を取り出す。グループごとに飴を配る。</p> <p>時間を指定する。 指導的には時間が短いほうが「無理だったでしょ？」という流れにもっていきやすい</p> <p>指導の準備。 兼、飴が気になって授業に集中しない児童予防。</p> <p>PCなどで町の絵を表示。</p>	<b>8分</b>

<p>展開 ①マップ</p>	<p>「これはある街の様子です。」  「先ほど皆さんは手を思うように動かすことができない、という状態を体験しました。」  「では、その体験をもとに、障がいを持っている人やお年寄りなど、不自由を感じている人にとってこの町のどこが『不便』もしくは『不自由』になるか考えてみましょう」</p> <p>「班で話し合い、意見をまとめてください。」</p> <p>&lt;7分間&gt;→児童には5分と伝える+予備時間。</p> <p>「では班ごとに発表していきましょう。」  ※発表された順にマップにあらかじめ用意していたカードを貼る。  ↑大谷先生にマグネットお借りする</p> <p>意見が出ない場合は、先ほどの体験を踏まえたうえで、町を歩いてみよう、と町の様子を想像させ、こうしたらもっと便利になるというところに気付かせる。</p> <p>《新たな意見がでた場合は、T.Tがカードに書く。》</p> <p>例：「じゃあたとえば、駅に行くとしよう。  駅に行くためには、この道を通って行くけど、もしも目が見えなかったら、どういうことになるだろう」  →駅前放置自転車にぶつかる、など。</p>	<p>その他に、妊産婦、乳幼児など。</p> <p>あらかじめ時間を伝える。</p> <p>表示されている絵の地図にバリアになる部分を書きこむ</p> <p>具体的な例を挙げて児童に想像させる</p> <p>●町田駅などの自転車があふれかえった写真などを提示  ●シャンプーのボトルやプッシュ部分についたギザギザ</p>	<p>10分</p>
<p>展開 ②BFとUD</p>	<p>「さて、では今あげたような不便を解消するために町や建物にはいろいろな工夫がされています。」</p> <p>&lt;挙手制→あがったものを板書。あがらない場合は直前の「町の中の不便なところ」を元に考えさせる。  <b>BFとUDのフラッシュカードを並べる。</b>  そのとき「あー、これはこっちかなあ、」などといって児童に対して、何らかの意味があって分けて書いているという点を気づかせる。&gt;</p> <p>「こういった取り組み、は最近街中で多く見かけるのだけれど今、先生は大きく二つの組み合わせに分けました。」  「どうしてこういう組み合わせになったのか、わかる人？」</p> <p>&lt;挙手制→答えが出なければ、ヒントを出す。  例：左のグループは、もともとあるもののなかで、障害者の人も使えるようにしているものだよ。右はどうだろう？（左：BF 右：UD）&gt;</p> <p>「このように、  <b>使えない人のために特別な工夫をして使えるようにデザインすること、をバリアフリー、はじめからみんなが使いやすいようにデザインすること</b>をユニバーサルデザイン、と言います。  <b>フラッシュカードを並べる。</b>  これは今日の目玉の言葉なので覚えて帰ってくださいね。」</p> <p>「たとえば、この絵（先の過ぎにくい町の例）の中で言うとこんな風に車椅子を使う人にとって、段差のあるバスは乗りにくい。これをバスを改造して車いす用のリフトをつける、というのがバリアフリーの考え方です。」</p> <p>「だけれどこれだとこれはお年寄りやベビーカーでは使えないし、リフトをしまっておくためのスペースを作るため、</p>	<p>左にBF  右にUDとする、等</p> <p>さきほどならべて書いたもののうえにフラッシュカード提示</p> <p>授業ではできるだけ本物使いたいがバスは持ってこれないのでここは絵などを表示。  →3枚紙芝居</p> <p>※絵については</p>	<p>15分</p>

<p>展開 ②BFと UD つづき</p>	<p>座席が減ってしまう。」 「これではみんなにとって使いやすいバスとは、言え…？」 「ないですよー？」</p> <p>「そうではなくて、最初から段差のないバスを作ってしまう」 「そうすれば、みんなが乗りやすいバスになりますよね？」 「これがユニバーサルデザインの考え方です。」</p> <p>「バリアフリーとユニバーサルデザインの考え方の違い、わかりましたかー？」</p> <p>※ たぶんこう聞くと全員「はい」というので。</p> <p>「はいじゃあわかったようなのでテストします。」(即座に)</p> <p>具体的な例を挙げて、この取り組みはBFかUDかを問う。</p> <p>例：洗面所の蛇口は、奥にある取っ手を回さなくてはならないから、車いすの人や背の低い子ども、お年寄りや、握る力の弱い人には使いにくいという問題がありました。 ではこの蛇口の取っ手をレバー式に替えたとします。 この段階でいうと、さっき言ったような握る力の弱い人たちにとっての問題は消えたといえるかもしれませんが。 でも、これだと場所によって、上げると出るもの、下げると出るもの、回すものなどがあり、どうしたら水やお湯が出るのかわかりにくい。 結局、奥まで手を伸ばさなければならぬことは変わりません。</p> <p>「はい、この例はBF、UDどっちー？」</p>	<p>前述URL参照</p> <p>全員に確認をする。</p> <p>先ほどの板書を消し定着しているか確認。</p> <p>3枚紙芝居</p> <p>もし誰もわかっていないようならば再び例を交えてBFとUDの違いを説明する。 わかりにくい概念(=大学生でも知らない人が多い)ので何度も繰り返す。</p>	
<p>まとめ</p>	<p>「それでは、最後に今日のまとめです。」 「今日やった大事な言葉。2つ。せーの？」 「ユニバーサルデザインと…？」 「バリアフリー、ですね。」</p> <p>「バリアフリーが、もともとあるものを手直しして、使えない人のために特別な工夫をして使えるようにデザインすること」 「ユニバーサルデザインがはじめからみんなが使いやすいようにデザインすること、でしたね」</p> <p>「二つとも大事な考え方なので、忘れないように。」</p> <p>「それと、最後にひとつ。」 「今日の一番最初に、みんなに手を使わないで飴を食べてもらいました覚えてるよね？」 「あのとき、みんな思ったと思うんだけど、ああ不便だな、やりにくいな、って思ったと思うんだ。」</p> <p>「でももしあそこに、じゃあたとえばアーム型、腕の形をしたロボットがあって、みんなのよいタイミングで飴をお皿から口に運んでくれるとしたら、みんなはそれでも不便かな？ それから機械や道具の力を借りなくても、まわりの人たちのやさしい心づかいや手助けがあったとしたら・・・？」</p> <p>「たしかに自分の手で飴玉を運ぶよりは食べにくいかもしれなくても、今日みんながやったやり方よりは、食べやすいよね？」</p> <p>「そういう風に、大変そう、不便そうなことでもじつはちゃんと何かそれを助けるものや助けてくれる人が不便さっていうのは起こらないものなんじゃないかな。」</p>	<p>児童への問いかけ。</p> <p>ここについても児童に答えさせる形で。</p>	<p>12分</p>

	<p>「たとえば骨折して歩けないときでも、  電動車が、もしくは自動車に乗せてもらえれば  歩くこと自体はできなくても、どこかに出かけていくことは  できるから、不便さは減るよね？」</p> <p>「不便さ、不自由さっていうのは実は、  障がいがあるから、とか何かハンデがあるから起こるんじゃないかと  そのための助けるものがないから、起こってしまうんだと  先生は思います。」  「今日話したバリアフリーやユニバーサルデザイン、といったものはみんな  にとってどんなものと言えるかな。」</p> <p>「はい、それでは次回は  今日学んだバリアフリーやユニバーサルデザインのものが  実際に町のどこにあるのかを探しにいきます。  今日絵の地図で見たようなところ以外にも  町にはまだまだたくさんそういったお助けのモノがあると思うので、  みなさん次回はよく、目を凝らして探検してくださいね。</p> <p>今日帰ったら、もう一度バリアフリーと  ユニバーサルデザインの違いを家で復習しておいてください。  おうちの人に教えてあげてもいいと思います。</p> <p>「あー、たまにはちゃんと勉強してるんだ」ってところを  しっかりと見せてあげてください。  それでは今日はここまで。」</p> <p>「日直さん号令を」</p>	<p>本時の主題、  本単元の主題。  小学生にはいささか  難しい話なので  なるべく平易な言葉  で解説</p> <p>次回の体験に関して  の注意なども行う。  （おかし、の  約束など。）</p> <p>教えることで身に  つくこともある。</p>	
--	---	--	--

評価： 自分の意見をクラスの皆に発表するなど、授業に積極的に参加できる。  
バリアフリーとUDの違いがわかり、具体的な例をあげることができる。

参考文献： ●『ユニバーサルデザインとはなにかーバリアフリーを超えてー』古瀬敏 編著、  
都市文化社選  
●月刊『農A s h i t a』平成12年6月号特集「ユニバーサルデザインのまちへ」  
(株)ぎょうせい  
『みんなにやさしいまちづくり／ユニバーサルデザインの視点で考えるまち・商店街』  
産業デザインセンター 平成14年2月

準備： ・ 飴玉  
・ フラッシュカード  
・ シャンプー/リンスのボトル  
・ 写真  
・ 3枚紙芝居  
・ マグネット ←大谷先生お願いします